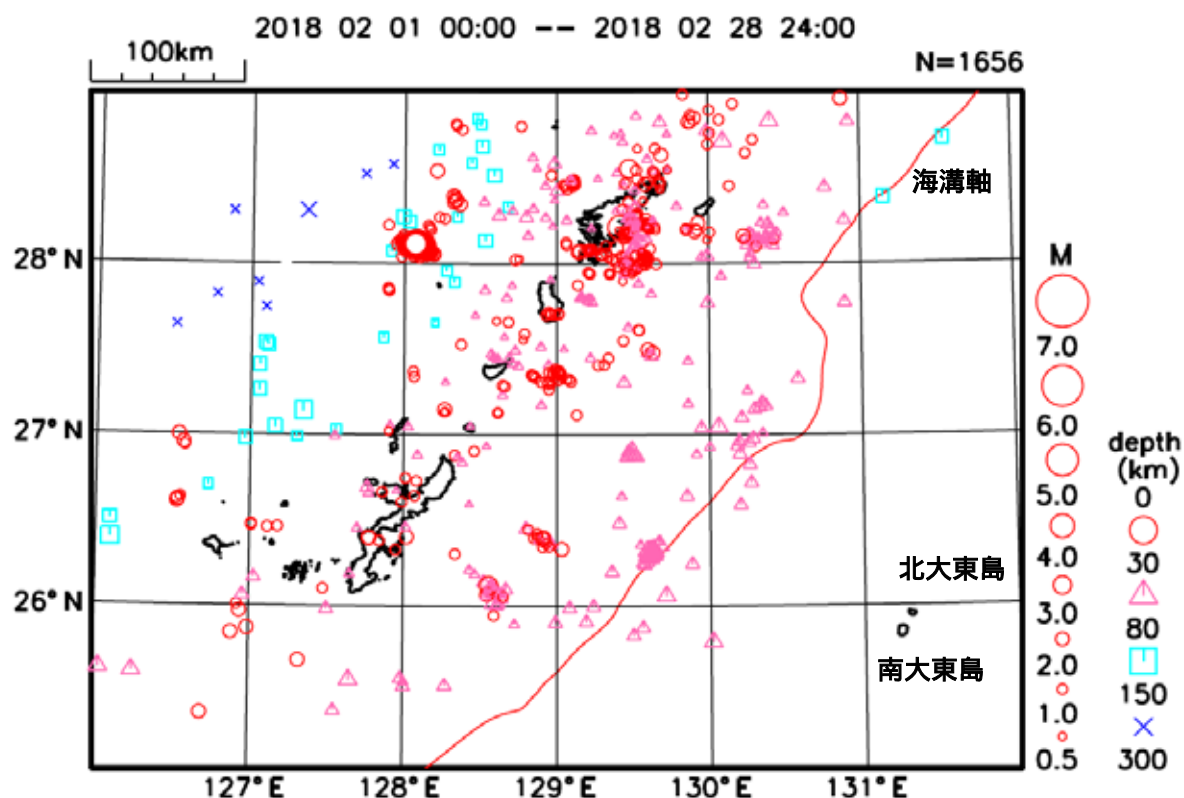


地震活動図

2018年（平成30年）2月

南大東島地方気象台

震央分布図



震度1以上を観測した地震を吹き出しで示しています。

図中の記号 M：マグニチュード depth：震源の深さ

N：地震回数（マグニチュード0.5以上の回数です）

[概況]

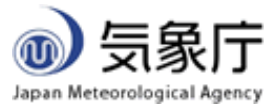
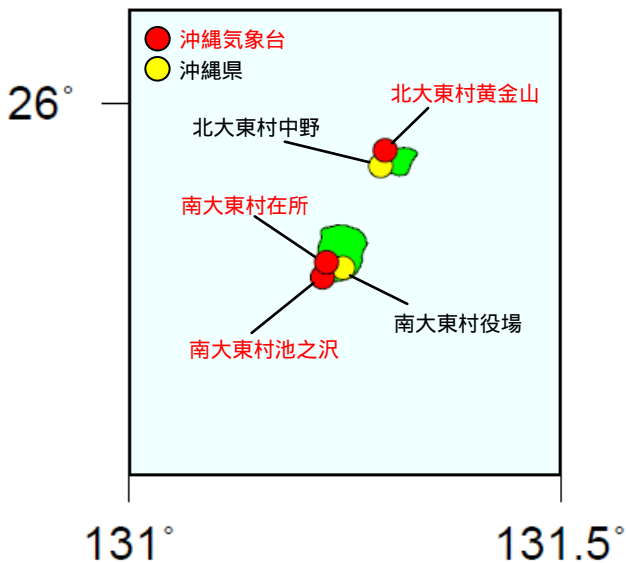
今期間に、大東島地方及び沖縄本島地方とその周辺(図の範囲内)で観測した地震は1656回(1月709回)で、このうちM4.0以上の地震は6回(1月2回)でした。なお、大東島地方及び沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震はありませんでした(大東島地方1月0回、沖縄本島地方1月0回)。

資料中のデータについて

この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

データについては精査により、後日修正することがあります。

大東島地方の震度観測点



本件に関するお問い合わせ先

(南大東島地方気象台)

電話 09802-2-2006

<http://www.jma-net.go.jp/daitou/>

地震雲はあるのですか？

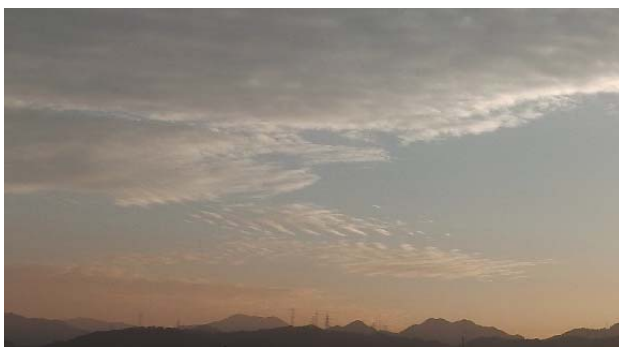
気象台にかかってくる問い合わせに、「今あるのは地震雲じゃないのか？」というものがあります。「いつもと違う雲に見えた」や「動かない雲がある」「雲と青空の境目がくっきりしている」といった物が多いですが、それらは気象観測で分別できる雲の一つで、その全てがこういう気象条件でできる雲ですよ、と説明がつくものばかりです。

雲は大気現象であり、地震は大地現象で、両者は全く別の現象です。大気は地形の影響を受けますが、地震の影響を受ける科学的なメカニズムを完全に説明できているものはありません。

また、生活に影響が出るような大きな地震が起きた後、しばらくすると必ずと言っていい程出てくるのが「何日後にどこで地震が起きる」などといったデマ情報です。スマトラ島地震(2004年)の後には再び津波が来るというデマによりパニックが起き、本来亡くならなくてもいい命が失われています。熊本地震(2016年)の後にも日時や場所を指定して再び地震が来ると気象庁が言ったという話もあったようです。

気象庁は日時や細かい場所を特定して地震を予知する情報を出すことは決してありません。

近年ではインターネットやSNSなどの普及により情報の数が増えるのに比例してデマ情報も増えてきています。正しい情報に基づく迅速な避難が、災害を最小限にとどめることは言うまでもありません。誤った情報を鵜呑みにしない、自らで判断する事も大切です。地震や津波を正しく恐れて、身をまもるために備えることが重要です。



前線通過などの時にくっきりと雲と青空の境目がはっきり見える事があります。また、高い雲では雲の粒が水でなく氷になるため、様々な現象が現れます。写真の上部は高積雲、中央には波状の高積雲が見えます。

(気象台職員撮影)



この雲なら明日の天気はこうなるという言い伝えは多く、結構当たりますが、この雲なら地震が起きるといった言い伝えはあまり聞きません。写真は巻雲。よく見かけます。

(気象台職員撮影)



地震・津波に関する情報は
沖縄気象台ホームページまで

<http://www.jma-net.go.jp/okinawa/index.html>

沖縄気象台

検索

